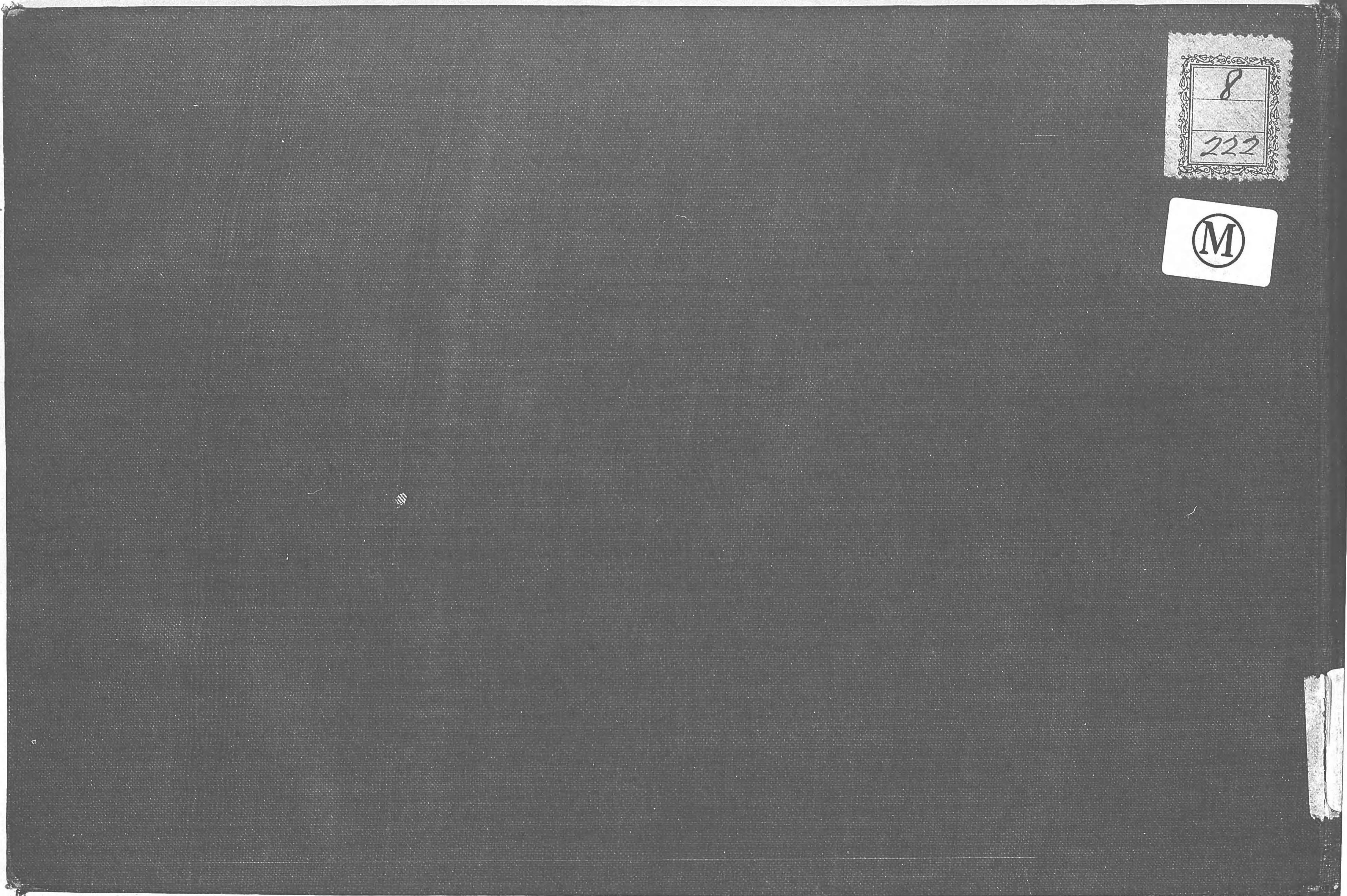


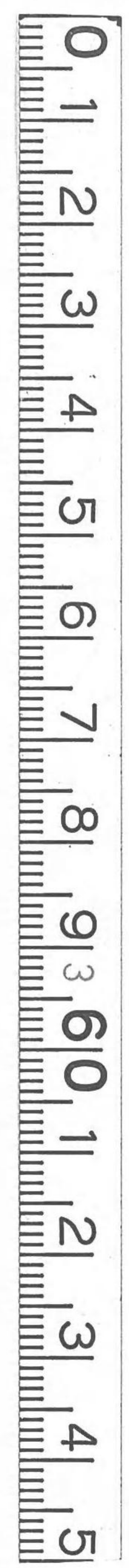
始





8  
222

M



8  
313



松子  
旅の家  
は

□□







正  
大  
堂



雄島倒松

竹浦の東南雄島に到る道にあり

松の翠滴りて水碧き所

月に鳴く千鳥の聲や

いかならむ

※

※

※

※

松島や

なしまの磯に

よる波の

月の氷に

千鳥なくなり

俊成





# 雄島の夕暮

瑞巖寺に入相の鐘響き渡りて

今日もはや暮れなむとす

雄島の庵中に夕勤の音微かに

沖に閃く漁火の影二つ三つ

水も島も松も皆閑き所

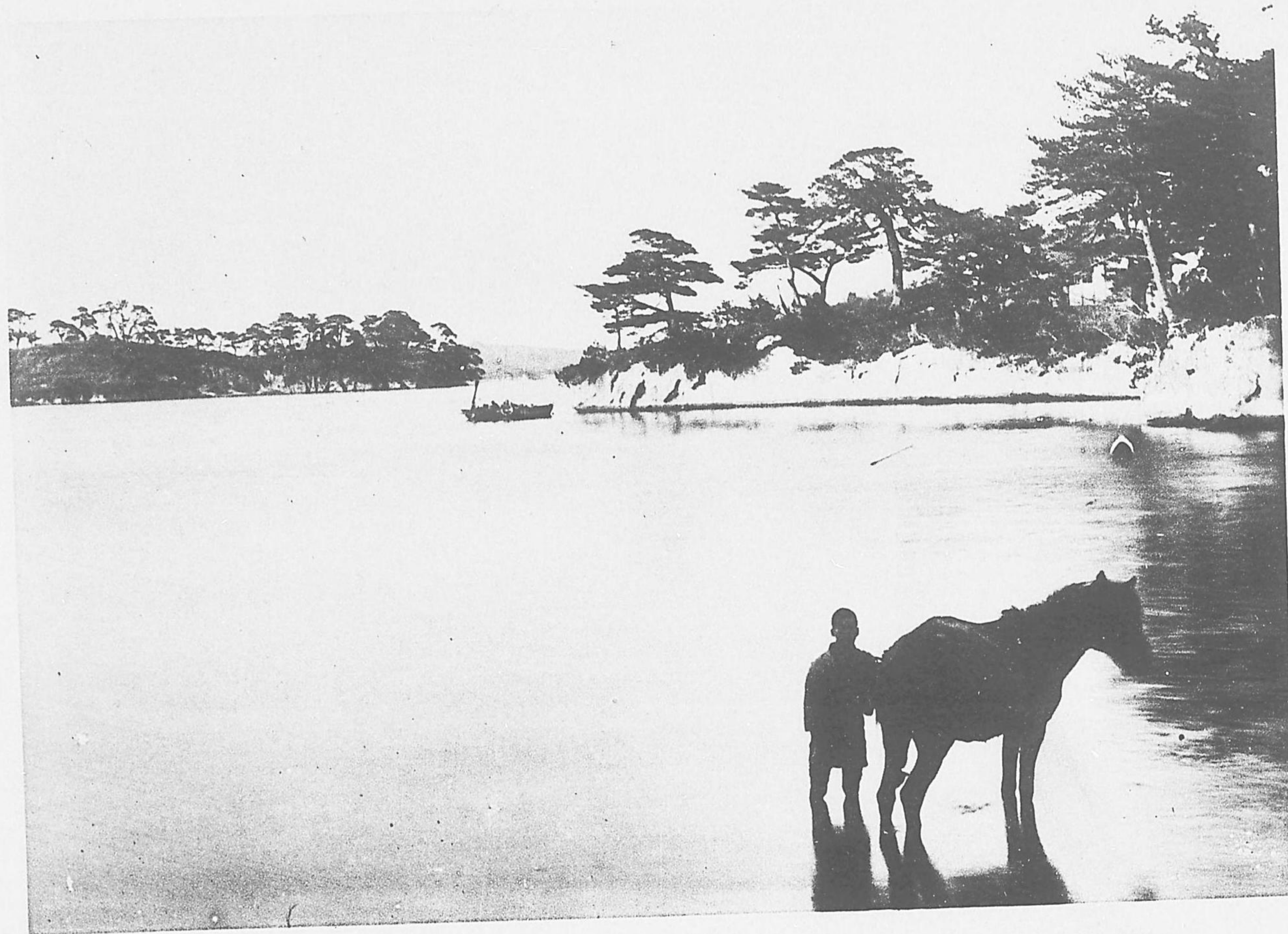
馬を勞はるの人平々淡々



心あるなしまのあまの袂かな

月やされさばぬれぬものから

宮内郷

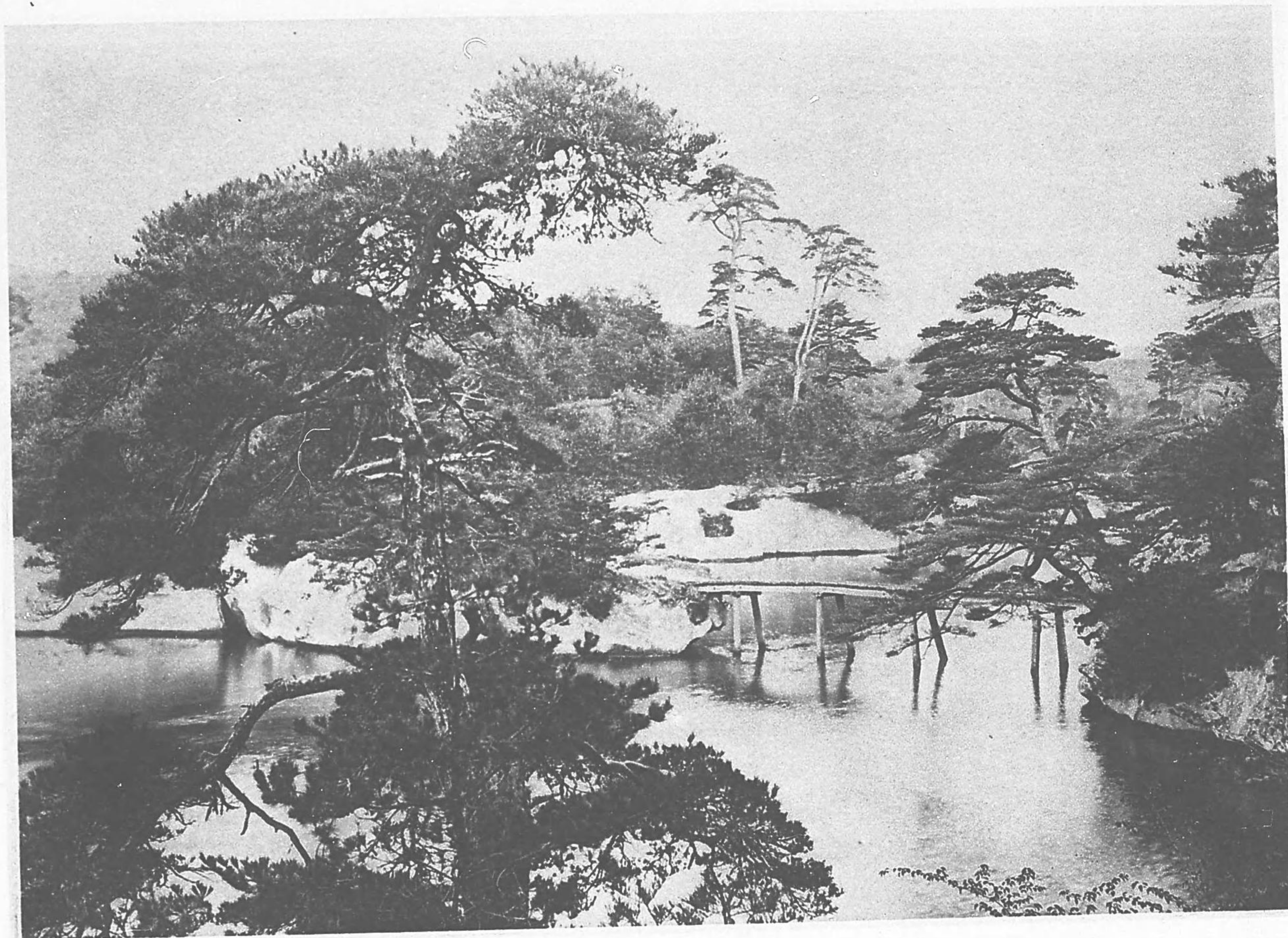


雄島渡月橋

往古日本武尊東征の時こゝに  
御やすらひましりせるより御  
島と稱ふ渡月橋とば小松崎よ  
りこの島に渡せる橋なり島は  
五大堂と相對し古松千株苔蘚  
青く風塵遠くして幽邃清淨た  
る靈境なり島中に松吟庵見佛  
堂座禪堂あり

秋の夜の月やなしまのあまの原  
明ちたちき沖のつり舟

家 隆



華島園日記

雄島より觀月樓  
を望む

浦風や

夜寒なるらむ松島の  
海士の苔屋に  
衣うつなり

土御門内大臣



松島や

あまのもしほ木それながら  
こりぬ思ひに  
たつ煙かな

権大納言實雄



蘇島の松

双子島の朝暎

月雪に眺めよきはいはすも  
あれ暗冥を破て躍り出つる  
旭日の壯觀は天地始めて明  
なるこゝもに特に松島に於  
て雄大なり

朝よきを誰まつ島のかた心はせを  
朝霧やあさより戀の千松島 蓼 太

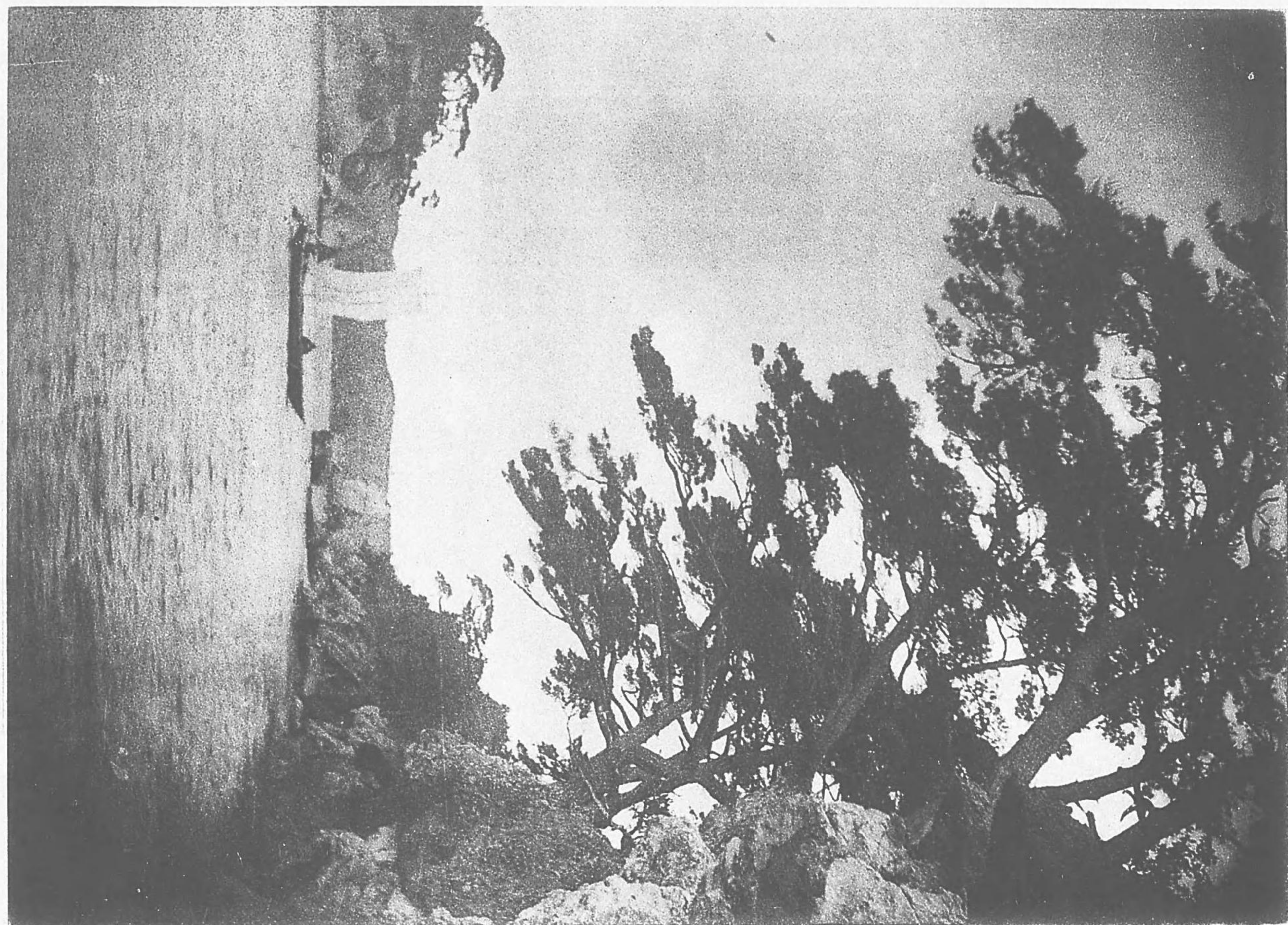




拾二妃島

碧灣の内青螺の點々せるも  
の多きも特に容姿清婉雲の  
如きものこれを十二妃島と  
稱ふ

補綴皇鳩五色石 萬松留在不周山  
只疑地缺天崩後 關此群仙遊戲裏  
大槻磐溪



## 兜 島

……白鷗飛衛のその洲に啄み縁鴨群鷺その涯に集る浩々  
たる煙波は歸帆やゝ有無し累々たる島嶼は釣舟芻ち出沒  
す萬松月を藏めて斜めに葉間の金を碎き遠く汗風を含み  
て鮮かに江上の雪を崩す……

佐久間洞巖



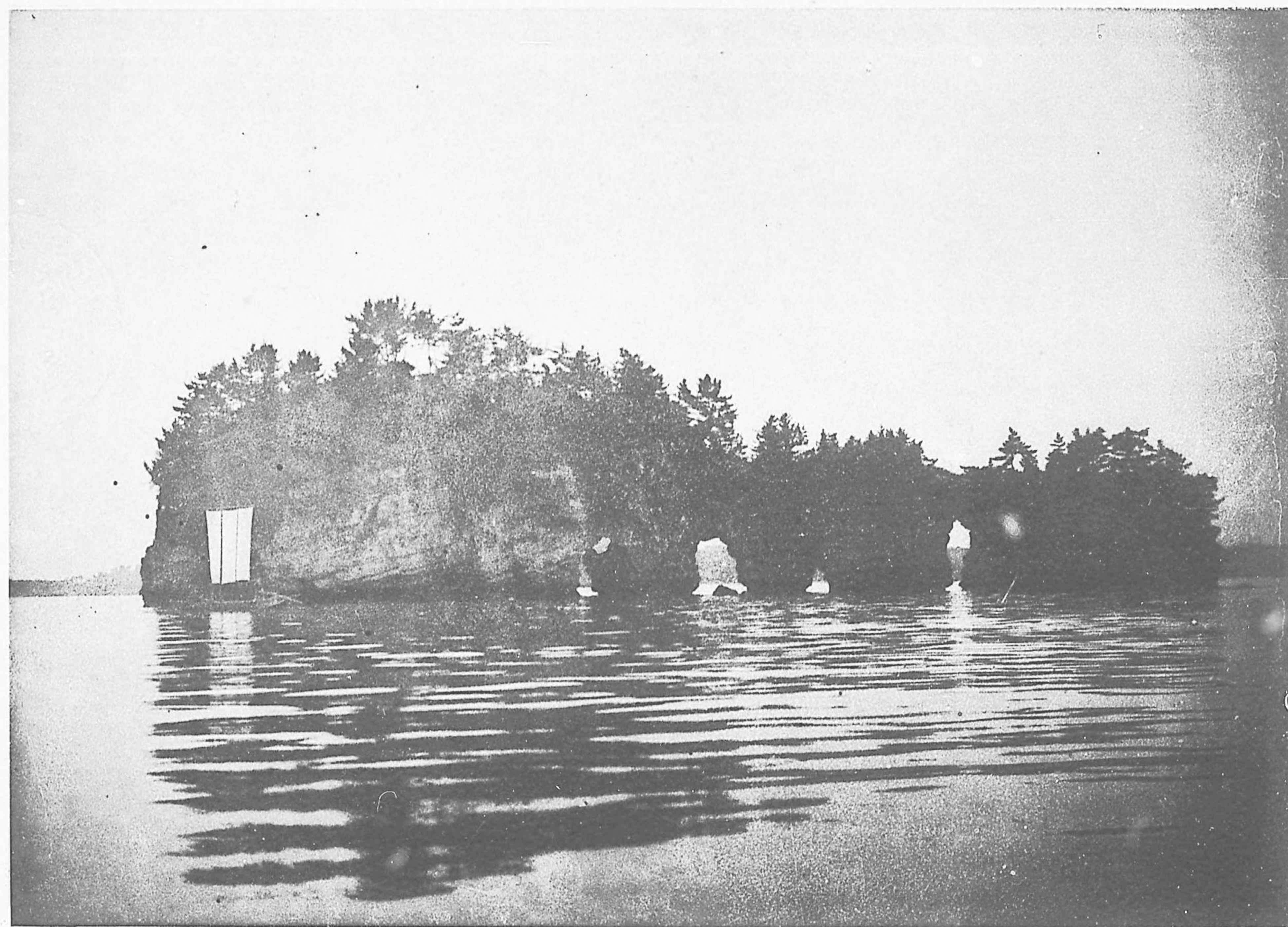
# 橋掛島

\* 天工自然の橋梁

\* 柱脚三箇の洞門をなす所 \*

\* 怒濤渤海に激して白沫飛散 \*

\* 其既に外洋に近きを知るべし \*



桂島絕壁

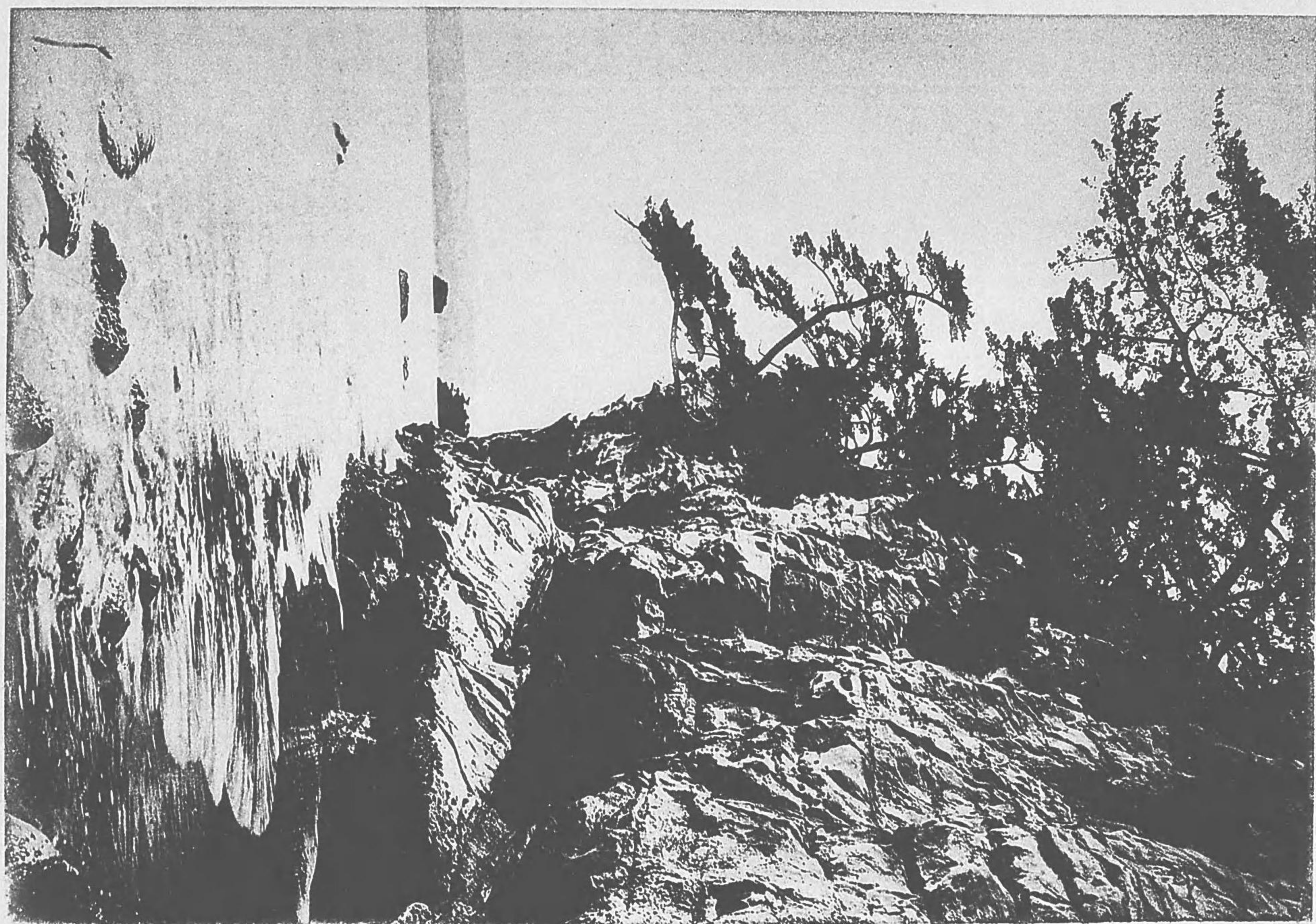
清風能自洗心日

勝境頓知冥聖凡

更欲揮筆題絕壁

巨壘靈夙捧層巖

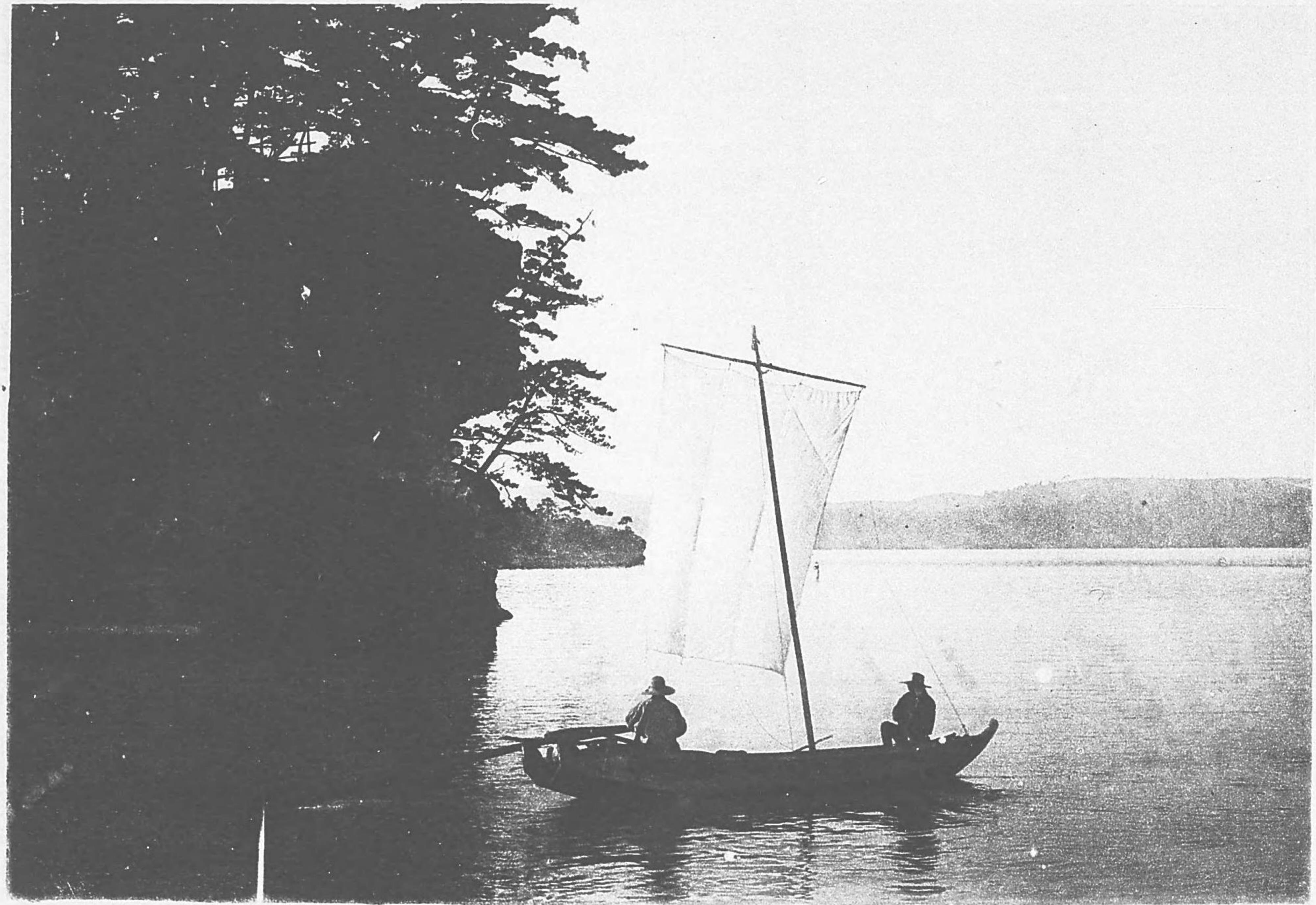
釋南山





柏木島

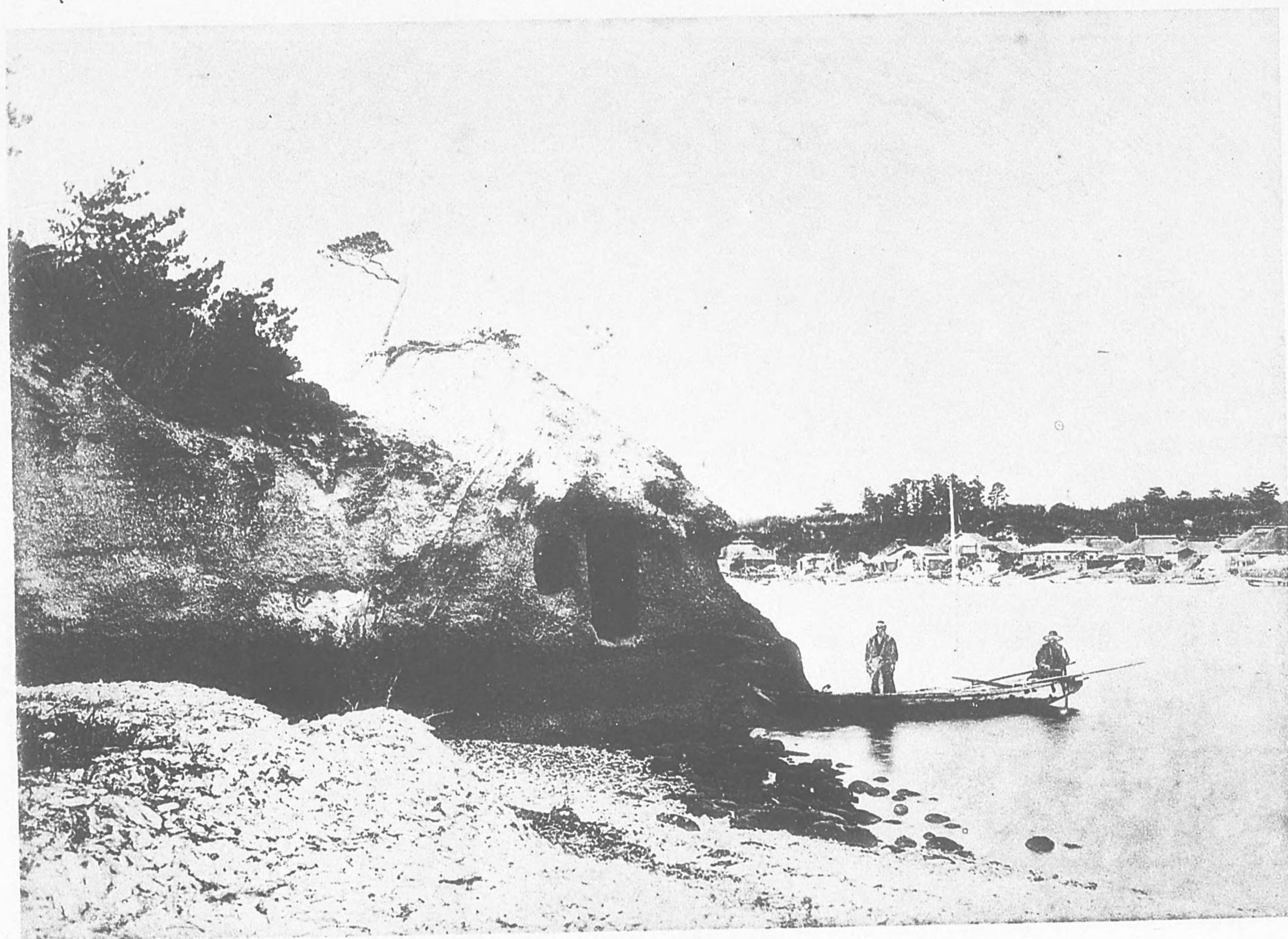
風帆近掠岸邊松  
遙見群巒走若龍  
幾處灣峙巧交代  
前洲纔綻後洲縫  
大槻磐溪



笠木島

貫之

幾世經し磯への松そむかしより  
たちよる浪や敷は知るらん

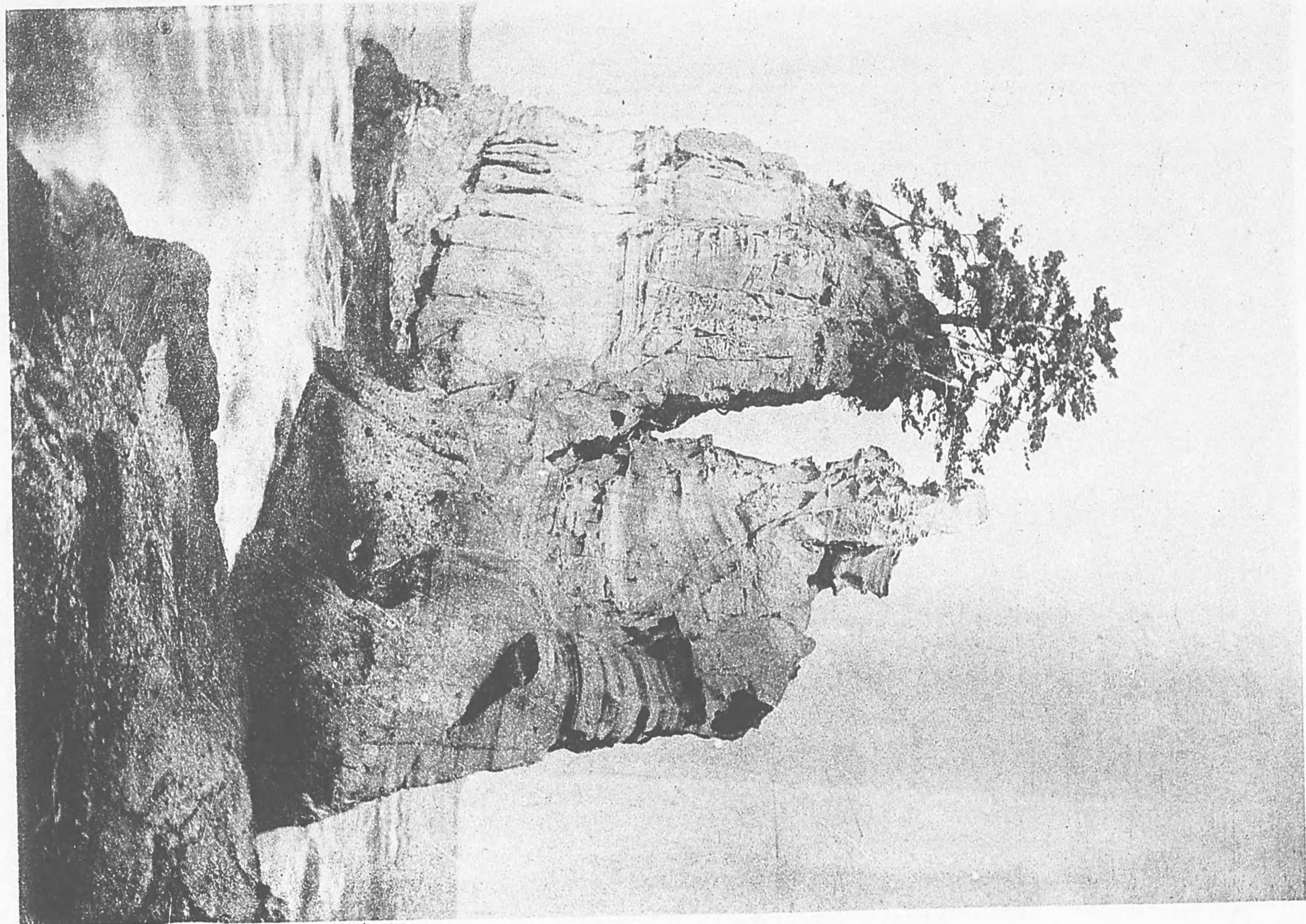


花魁島

遙かにこれを望めば

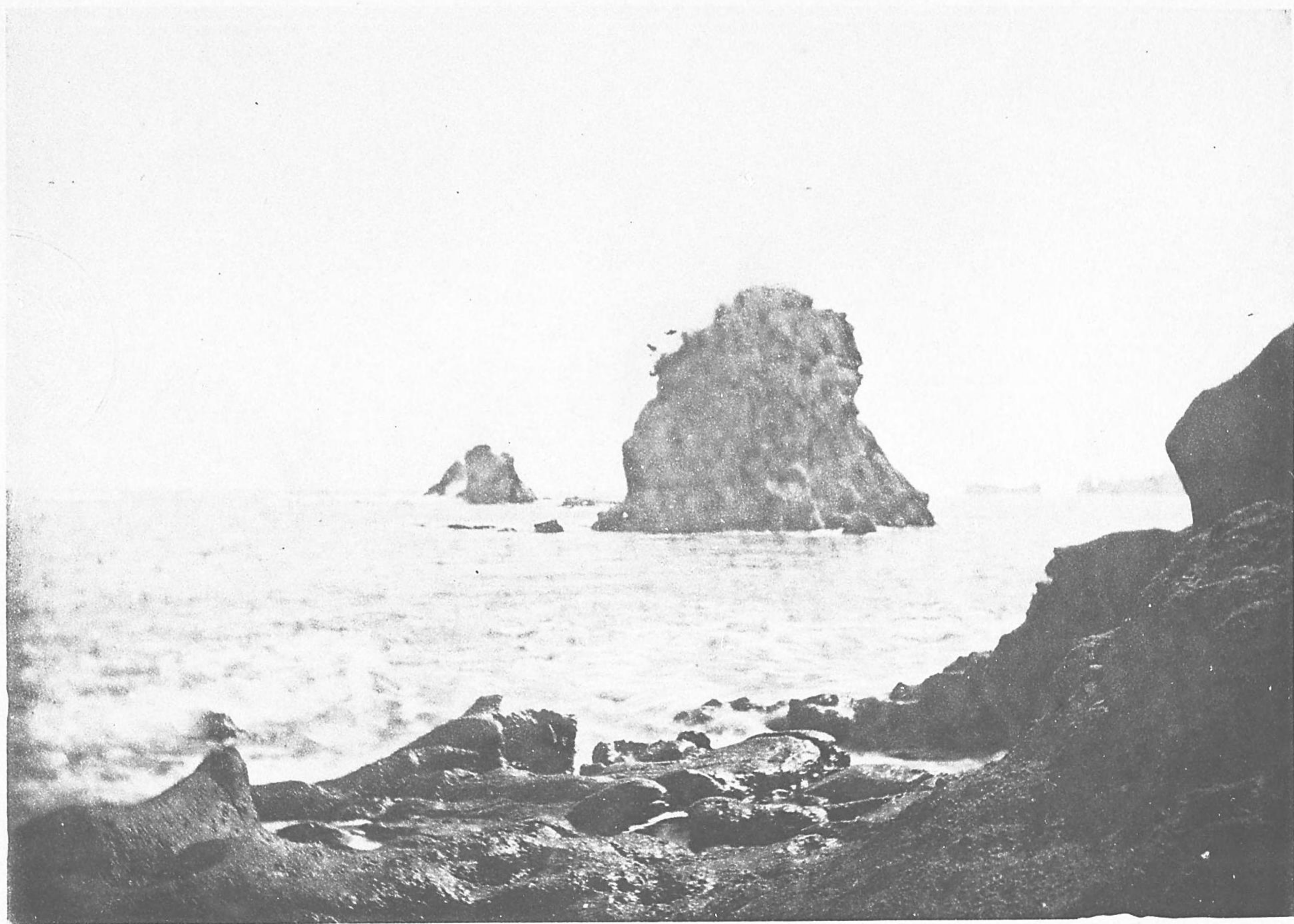
粉黛の美人の簪挿せるに似たり

八百八島中の最も遠きものとす



惠比須岩

花魁島より望める所已に遠く洋中  
に立てり尋常行旅の客稀に訪ふ所





不老山

松島村を東に距る四里餘景濱  
にあり舊名念佛壇なりしも伊  
達綱村の茲に遊ふや其名の雅  
ならざるを恨みさし此地終に  
人を老ひざらしむるに足るさ  
て不老山と冠せり

天下有山水各擅一方美  
衆美歸松島天下無山水

釋南山



明治三十一年六月五日印刷

(旅の家土産第六號  
千松島之卷)

明治三十一年六月十日發行

(非賣品)

發行兼印刷者

中尾新太郎

東京市赤坂區田町七丁目四番地  
光村方寄留

發行所

光村寫真部

東京市赤坂區田町七丁目四番地

印刷所

光村寫真製版部

東京市赤坂區田町七丁目四番地



*[Faint, illegible handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side of the page.]*

8
222

終